

KODAK Color Control Patches  
© The Tiffen Company, 2000  
LICENSED PRODUCT  
Black  
3/Color  
White  
Magenta  
Red  
Yellow  
Green  
Cyan  
Blue

善知安方忠義傳  
二編  
參

13  
1305  
11

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

1305  
11

善知安方忠義傳第二輯卷之三



東都

松亭金水編次

荷助糸遊と將て上野へ去る

第五回

高純睡中小歡樂と夢を

かくて西條重太郎高純の老る父と後小遣へてとある小忍びごまごも。  
 七言をかめかく論ずるとさる春の夜比明やま。備佐小黎明なるがゆへ  
 進退の便を悪し。とさるのゆるち歎く。糸遊とさる励とさる家とさるを  
 出さると音が鼻の方へ性た。柿のささひさる爪甲めて慈恩寺村なる  
 金井が家へを望みて表の戸をわたくとち寝く。金井の昼の勞まのう人小。  
 彼馬主が歡待小。とさる碎く。とさるのま。うち外へ前後もさる。さるの  
 重太郎が忍びさる小。敲くとさる後さる。唯駒と熟睡せり。重太郎のさる夜

善知第二輯卷之三

〇一



訝るゆぞ重太郎の四考と云ふなり。背脱へ身と云ふて訝るゆの有理あり。  
箇様との仔細小より父の言葉の黙歩と云ふ。且その意小任。怖諸俱小も  
生と云ふと信と在下と召連下と云ふ。証文と云ふと在下家小在と云ひて。  
知縣その終小済さんや。さうその宗を老父が身。一人小治するてはや老功の  
毎小彼君臣と説依るとも。奸佞の衆縣争うの父とや放ち飯すさ然れば父が  
厄難安花側と云ふ。秋小至と云ふ。退小忍びんや。さうと強て頼抵と云ふ。  
亦その慈愛莫大なる。恩と云ふと小情と云ふと云ふ。さうと云ふと在下の  
取てかへ。潜と云ふと知縣の動静と窺ひ父の先途と見届けて。律あるのままで  
あり。倘父が身小粹あると云ふ。命と捨てて救はんのと云ふ。固て愿ふの怖の工と云ふ。  
足下今より怖と伴ひ上野なる草津の郷鬼石許へ送る。後と云ふと云ふ。  
恃と云ふと云ふ。且の是等の一大事と云ふ。欲と云ふと云ふ。詞短う小のひ

けと云ふ。荷助の云く大小の事と云ふ。ひのかけぬ。大事。貴客が恃と云ふ。おの赴きをむ  
あとのあつと云ふ。糸柱の毒と草津へ送る。道の案内と云ふ。のあり。在下の  
限はと云ふ。この禍と云ふ。おせし。此方小。ぬと云ふ。貴客と在下。西個小  
あり。小知縣貴客と捕へて辛き自らせん。歎すこと。嫌ての本。夏小。聞  
怖と云ふ。容易と云ふ。下と云ふ。故小。老人。父君と捕へて半の質とする。これ  
貴客と在らばと云ふ。怨地。父君と獄舎へ下し。且貴客が救ひ小。未と云ふ。防と云ふ。嚴  
重なるすべしと云ふ。譬。樊噲。周勃と云ふ。欺くと云ふ。勇ありと云ふ。貴客一個と云ふ。  
父君と救ひぬんと云ふ。ひもと云ふ。空と云ふ。知縣が毒と云ふ。小。羅と云ふ。命と云ふ。隕と云ふ。ん  
の。境小。けと云ふ。視と云ふ。物。の。要。あ。の。と云ふ。の。と云ふ。客と在下。小。月。胞  
の。と云ふ。愿。つ。の。死。生。と云ふ。俱。小。せん。と云ふ。誓。と云ふ。ある。小。か。る。大。の。と云ふ。商。と云ふ。糸。柱。の。毒  
と諸共小。上野へ赴と云ふ。危急の場小。外と云ふ。遺憾と云ふ。と云ふ。の。あり。吾家の

僕権内の元上野の彦と申す。彼処の業内よりあつた。性素悪むれど直小  
もよく義重ののりも不彼より糸柱の毒と草津へ追の遣まこと。さうり遣  
志重のほ然と在下の貴客と俱小先生。高貴の安否を窺ひ万一のとあん  
あの一臂の勞不換するん。只當らるるを許させると餘儀もあひ言しけり。  
車太郎の安否を頭と左右うち掉て足下グ詞勇はく。且その志の今小指  
めどいと歡ぢりさりのある。布と足下グ下僕小委徳で鬼石が方への送りかじ。  
とむりのそ、足下グぬ意と穿くる小似。さうともさ不任知のあつた。さう  
コ小父船縣の動静と粗察してその郷の出に。いんと廻し必も守りけり。  
その心とさ退下。さう山を就え溪と攀龍が鼻より流注へ懸る路の難不  
あつた。大方小免多し。然もとも尚彼処小の。同者あつて是と拒まが討捨て  
溪へ抛入も根と断てさうと。緯細す小示しあつた。さう一人も討捨さ。逃飯

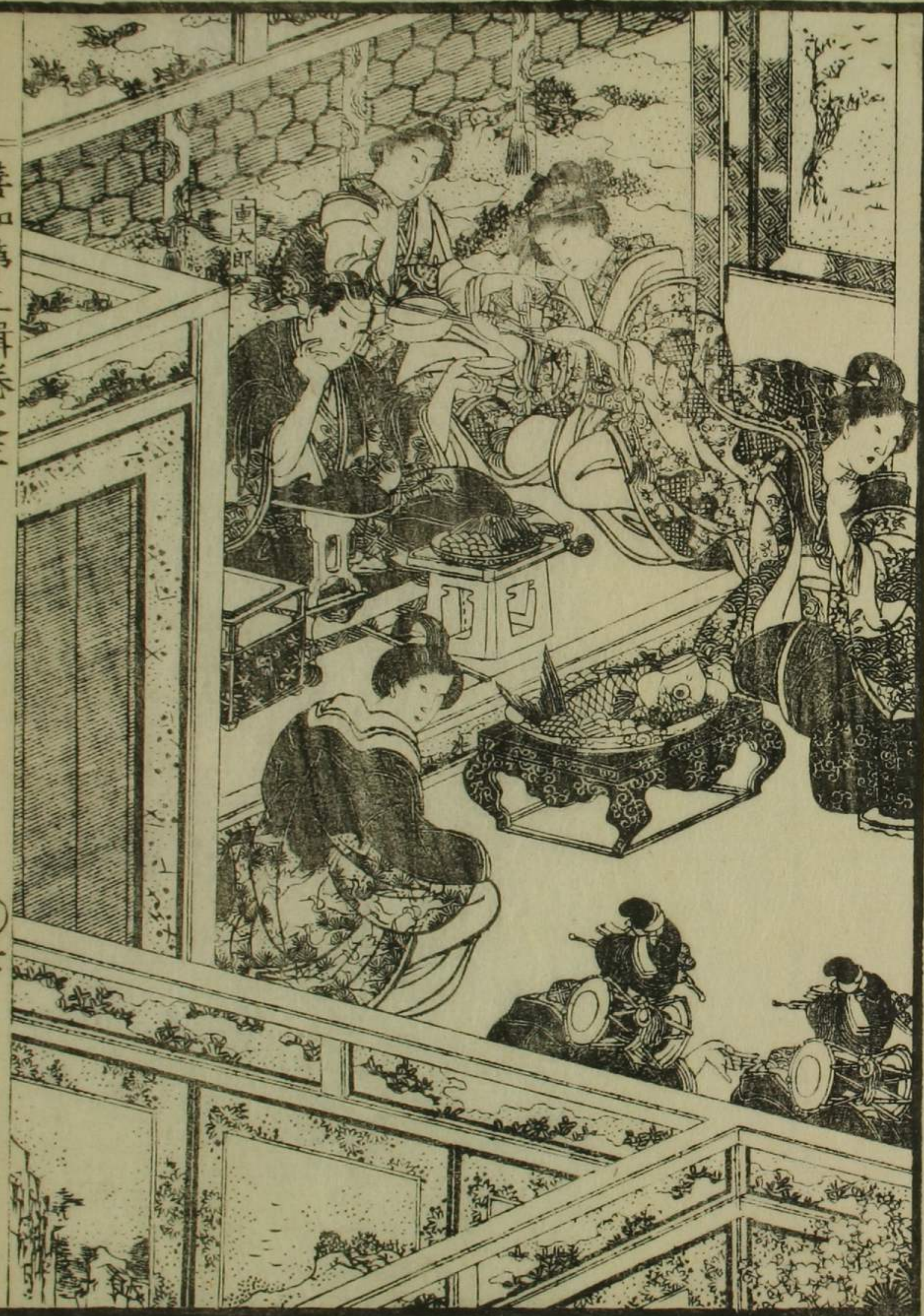
至てそのとを許へらまんと忍候あり。さうがその義と恃むべき。足下と里  
見の兩個小限まり。さうは女子と伴ひて。中と辭悞あひひあつた。是より進小里  
又あつた。そのと恃む。さうの議論小時と移さ。いよく父が意小情を亦  
大りも過つ。い何あつたと急さる。金井の安否現もと曉り。さう條あ  
らへ争う否まん。在下座小さ。物物の要あつた。今小如く権内  
の思あつた。走使も健る。一個あつた。倍ともありあつた。さうが渠とが  
跡不遺して貴客が勞と援く。と権内と喚をづけ。さうのとのひ合め吾も  
草津へ糸柱の毒と送する。取てか。緯のやうと波へけ。さうと夫より筒小和子  
さうの地と退さ。いあつた。さう小成換。さう万より物せよと。詞短小分機  
て。さう糸柱と伴ひ。さうとさうと。糸柱の女あつた。心雄とさうのあつた。  
父と弟が存亡を測る。さう小阿容と先達て遁ま退んと人さうの。本小

ふ程の一什とん届けて。死生と俱ありてん。とうち歎きさ。重太郎が彼を控えて  
く口説と重太郎の久しにその程ある心あるほどに於て父の命あり。各むの  
却て不孝あるん。まご吾が存亡と業がめめを程ある程ど。しや加縣の郷の人  
数を揺ひて取捲とも。在下些の勇威と震り。利刃とて麻売と難より。容易  
かぶり。その場小至下をむ身。の在る。却て足を握ひる。はくを運のふこと。後  
句幸ひおれぬれ。又等と業。苦あひむ。吹とち出る。龍が鼻より。流峠の山  
踏めて。程ある。不足と痛める。いとひ喻さす。今いとも。否む。おの。あ。さ  
その別々の惜ま。ま。せ。と。と。止ま。ぬ。涙の。滝の。玉。す。れ。回。る。ま。ま。せ。小。流。河。と  
拭ひも敢む。うち歎く。重太郎の猶言葉。お。所。ま。金井。お。駿眼。ま。ま。荷助。も  
そ。多。心。を。は。て。さ。あ。く。お。の。慰。め。夜。の。ぬ。ぬ。ま。お。の。境。を。ま。ま。の。便。り。あ。り。ん。と。お。て  
糸柱と先小。喘とて。重太郎の跡。目送。を。お。聊。心。易。し。と。権。内。さ。うち

招き。你。今。あり。里。久。ゆ。き。そ。の。は。密。お。告。知。せ。よ。吾。夜。明。生。て。さ。小。歌。も。その  
左右と候へ。さ。小。里。見。も。俱。お。来。ん。と。あ。る。所。へ。伴。あ。へ。し。と。い。ひ。合。む。ま。推。内。心。で  
ゆ。く。支。由。さ。ぬ。さ。ま。重。太。郎。の。主。僕。も。お。あ。り。て。鼓。家。小。は。ま。伸。し。臂。枕。を。て。控  
え。ま。と。行。未。と。彼。号。と。お。ひ。ま。り。昔。時。と。あ。ま。甲。夜。よ。り。の。芳。さ。ま。お。け。ん。心。地。お  
ま。ま。向。勝。後。の。うち。お。祈。何。方。と。も。定。ら。る。ぬ。が。善。美。と。ま。せ。金。殿。樓。閣。珠。の  
階。朱。の。棟。干。庭。上。の。砂。の。数。の。金。銀。の。多。さ。を。瑪。瑙。の。礎。温。小。冊。湖。の。柱。瑠。璃。の。扉  
現。お。七。珍。と。違。う。さ。の。り。る。國。王。の。官。造。ゆ。や。と。お。そ。く。樓。門。の。下。小。さ。り。て。り。ち。の  
身。り。と。親。入。る。小。年。六。十。可。あ。る。いと。薙。め。三。武。士。綾。羅。錦。繡。と。拵。る。年。十。七。八  
より。二十。可。の。美。女。多。多。と。伴。ひ。て。徐。と。お。ま。る。その。行。旅。の。花。多。さ。物。お。比。へ。い。小。さ。り  
る。重。太。郎。山。家。小。育。て。か。る。容。と。の。後。お。ご。祈。り。の。あ。ま。さ。ま。い。と。珍。し。さ。の。小  
必。ひ。傍。小。溜。と。眼。も。離。さ。ず。申。要。時。窺。ひ。居。る。小。美。女。多。多。錦。繡。の。被。小。額。郁。さ。る。留

奇き。其のわらひすて。さるる。在る。わら。三保の松原へ天降。このふ  
天津の女。このあつ。い。神を人。と。あ。いと。奇。も。藤  
の。猶。分。と。儲。と。寝。の。折。先。の。武。士。何。お。ひ。けん。は。く。と。重。太  
郎。傍。を。倚。よ。と。え。と。忽。地。小。踏。張。を。ね。回。額。着。君。の。何。方。小。伶。傳。の。い。  
在下。等。も。在。る。候。奉。侍。既。久。い。ご。く。此。方。へ。入。り。せ。め。と。後。方。を。侍。と  
祝。か。入。り。て。ご。ま。ご。ま。と。侍。と。侍。り。る。重。太。君。で。在。る。ひ。之。汝。等。案。内。に。奉。り。儲。比  
上。坐。へ。伴。ひ。ま。り。せ。湯。を。め。さ。せ。小。袖。を。召。換。さ。せ。奉。は。ま。と。指。揮。小。處  
女。等。重。大。郎。が。前。後。左。右。と。う。携。て。儲。の。上。坐。の。彼。必。小。侍。り。い。ご。ま。と。案。内  
と。さ。ま。と。重。太。の。更。小。合。長。の。後。の。頼。の。分。を。動。さ。し。是。の。心。を。老。の。僻。目。の  
人。差。ひ。小。こ。と。あ。り。め。某。民。間。小。成。長。と。足。下。等。と。と。貴。る。人。小。君。の。ご。と。致  
ま。の。は。い。ん。え。の。更。小。の。い。と。い。の。老。人。頭。と。掉。争。り。老。の。僻。目。あ。ん。在。下。の。伴。如。大。壽

次郎教。素とま。う。ま。の。の。ま。ぬ。る。天慶の比。西國。あ。て。も。も。く。功。と。ま。り。分。も。  
今。の。年。老。腰。曲。ま。り。て。物。の。要。小。ゆ。ま。り。ご。け。ま。い。の。傍。へ。引。退。き。最。愛。の。媛  
と。養。ひ。折。と。の。今。面。栄。や。末。と。も。見。ん。の。の。と。愿。ふ。折。と。の。僥。倖。と。君。と。請。侍。  
奉。侍。と。ま。生。前。の。飲。び。く。不。束。あ。ま。と。媛。と。り。て。君。が。傍。小。侍。ら。め。り。の。父。子。が。二  
期。の。僥。倖。之。尚。謀。の。寛。と。と。陰。を。あ。り。さ。ん。小。ま。つ。此。方。へ。と。い。ま。と。容。る。あ。り。え。  
る。ま。い。重。太。郎。の。分。を。起。の。の。處。女。等。小。誘。引。ま。て。あ。ま。り。う。る。所。へ。小。お。む。て  
湯。と。浴。を。せ。髪。を。梳。り。せ。ま。り。衣。を。廣。基。皿。裁。て。茶。を。持。出。し。脱。さ。い。いと。  
和。う。さ。在。呀。木。綿。の。升。目。衣。垢。深。う。小。引。く。え。て。る。も。あ。や。る。文。織。の。は。も。  
由。光。輝。を。う。ち。なる。衣。裳。を。老。上。坐。小。居。ると。等。一。般。多。の。處。女。が。持。出。す。桃  
子。土。釜。ま。り。山。海。の。珍。味。佳。肴。炭。種。と。ま。り。置。る。と。黄金。の。折。敷。王。の。皿。た。と  
つ。天子。将。軍。う。り。と。も。か。そ。う。の。結。構。へ。よ。も。有。が。じ。と。あ。の。美。と。ま。り。う。



重太郎睡中  
歡樂を極侍





閑まて言まやう。父教深きおひり。西の國にて勲功あり。と物持おのせり。と女  
雅き折ゆて。その片端とも。おのせり。物心つきらる。願う。と小枝まで春  
秋と豊小送を暮まりの。父いなき。歎息。一吾と運小懐ふ時。二三箇の主  
ともたう。おん身も娘君と冊く。とて栄曜。栄花の身も。と運小て素  
と。遂に今浪との。おのせり。と。僥倖。ゆて黄金小。え。か。移。の。歩。小。救。を。の  
田地と。索。め。ち。き。て。世。の。安。樂。小。送。ま。と。も。の。そ。武。士。の。本。を。る。う。ん。愿。ふ。よ。き。塔  
と。汝。小。配。偶。と。家。と。與。一。名。を。奉。は。る。う。是。小。詔。を。飲。び。け。て。あ。と。倚。ま。よ。言  
を。て。あ。り。ご。の。願。信。ぶ。る。也。神。あり。正。ま。ま。の。夢。の。也。若。あり。の。團。潮。平。ある。西  
條。高。純。い。今。と。そ。わ。ま。と。後。の。家。と。與。一。名。を。奉。ま。ま。と。ま。の。あ。り。加。藤。你。が。身。に  
と。ま。ま。主。家。の。血。脈。あ。る。の。あ。ま。と。は。是。小。娘。を。婿。あ。と。示。現。小。あり。と。大。小。飲。び。密。小  
潮。平。も。ま。ま。の。容。を。お。ひ。り。小。神。の。也。若。小。差。ら。る。英。雄。小。在。す。ま。り。て。い。う。で

婿小ありんと日夜望と。屋し。小。今日。不。因。も。の。所。へ。おん。身。が。来。り。の。あ。ま。と。り。て。送。ま  
入。奉。り。推。て。婿。小。あ。る。の。あ。ま。と。は。の。心。と。千。代。万。代。の。末。も。か。つ。ぬ。女。夫。と。あ。り。父。が  
志。を。嗣。べ。と。の。尚。小。の。言。し。て。ゆ。ひ。と。い。と。仿。る。兒。身。の。あ。ま。と。他。生。の。縁。の。あ。れ。が  
こ。も。一。席。小。並。べ。と。一。枕。の。松。底。の。漏。さ。ぬ。水。の。吟。前。え。や。あ。い。ま。と。懸。て。あ。り。ま。と  
り。の。亮。示。と。う。ち。笑。め。る。の。面。傍。の。萌。ゆる。春。の。柳。小。二。日。月。光。を。目。ま。と。ぞ。ぞ。渡  
か。ゆ。姿。小。も。尚。い。や。傍。て。心。髣。髴。と。醉。を。添。え。う。再。放。心。と。り。む。つ。さ。る。あ。て。も  
の。殿。道。を。願。ふ。法。則。小。超。する。あ。ま。と。や。こ。も。その。始。め。視。と。と。い。の。か。る。貴。人。の  
の。あ。ま。と。小。在。ま。る。よ。う。の。及。及。さ。ぬ。と。お。ん。小。王。公。大。人。の。彼。小。や。と。怪。ま。す。と。の。い。の  
暖。い。や。小。あ。て。妻。も。父。小。その。と。と。言。せ。し。の。の。ゆ。り。し。が。父。の。呵。と。う。ち。笑。ひ。何。条  
か。ま。り。の。屋。造。と。僭。上。を。後。と。の。い。の。あ。ま。と。と。ま。ま。と。心。を。ゆる。と。と。の。閑。白。殿。下。れ。の  
出。立。の。廣。と。日。本。小。肩。と。並。ぶ。者。も。あ。る。と。と。ま。と。と。と。不。運。小。と。か。は

斥鄙小才と儲め。在とのいと争う。本ッ心と失ふべきと言へるのゆひをこ況て  
主家の血脉たるもん才が住せぬのゆひ世屋造も似つじかんとて重太のいよ  
不情。日まて主家の血脉といひまこ志とゆるとまの因白殿下の出頭ありと死然そ  
まのの身の内白殿下の一族といひあ。是亦いよ心づじといふ顔と程と暖の赤  
笑。まあ定めて種との深き分解もゆる。後あて父小向の具小あぬといひ  
物とるせまあすの。怜惻とるる妾の罪許さぬと恥らひて火影小及く面影  
のぼひかる海棠の花のゆい小異あ。重太郎の刺気あて仮初小も声色あ泥む  
性あぬねとえこま本石あぬゆいその思愛小絆さま。こ小居ると三日可  
ま。後あての府小再ひ面と合せる。詳小向と便あ。唯明暮小媛と俱  
小酒宴と設け篠竹の調べ小心と慰さあて世のの忘さるゆく。とまこ上るは昇  
平樂國浦島のみが蓬萊國へ住む。ゆかやんとその樂こも半たぬ小。

耳をく推内が。和子よ唯今度りの里見のぬも未あひぬ。まど寒けを小物の被を。  
風とやひさのふらん。とあくと啼る声小同覺てまの金井が家あて翠帳紅圍  
の樂こもの。枕頭斥時の夢あまど重太郎の尚況のどく七珍の味小口中小珍重。  
美女の姿の眼小速と媛と副條のま醒やぬ。移王香濃くも匂あたる。一。  
里見近平の進こより。兼のまがひもけぬ家の艱の出未るより。昨夕よりの  
心配ここの労さあひけぬ。路と推内小粹の粗略兼りまてゆと渠さ入未女あく  
あさるよりあてのまこそのまを詳おせぬ。そのくあわゆる條ありや。語まると向  
かけま重太郎のの時小。その放心と収め四をこ祝かへり。襟くま合と容貌あ  
改らあさて如此ここと始めより。一位一什と精く信ま。近平の太息あさる。あ  
貞塞翁が故夏さあるとあて所謂禍福吉凶の糾つる纏のどくと。故人もゆりて  
あが後の栄枯のさあるとまの差當まての難ああり。そ客の兎小角小の家小





飲び酒の席の列王に召し出され其の行方と云ふにまじき事なれ在下  
 今日己の刻を限り小比館へ召し出され文を献じ其のまじき置がく  
 今より渠が平生と云ふ性所を尋ねて見ると云ふ所の所へおん使の  
 ありまじき事なれ(衆王出り)霎時に暇場のつばかまじき在所を尋ね  
 時日と移さず俱にまじき事なれ(衆王出り)霎時に暇場のつばかまじき在所を尋ね  
 知縣の怒まるを憂へ揚て甘く吾と詐編て遁まんと云ふとも遁さんや  
 汝拙さ智略を以て欺んと欲まると此方小黒と眼あや争汝小欺ら  
 まんを者共這奴と縛め辛き目を見よとのより早く心づくと雑式  
 どのをくくと飛鬼王矢庭におきて板搦より引却えんとするほど小高資  
 渠等を信と白眼尾終るを雑人どもよりや知縣の命ありとも吾小竹の  
 罪あつて搦めんと云ふ武士と生捕法汝等いんばありやと呵つつけ

雑人等その威小畏き日来より恐怖する高資のまじき左右ありて  
 さび少く爾著てんえけりとも物九郎の衝と云かりの甲斐ある雑人ども  
 具相公の命あるを頼り搦めよとのいも果て自分左右の手小麻索と手繰か  
 せらむら雑人小筋まじき事なれ(衆王出り)霎時に暇場のつばかまじき在所を尋ね  
 今より渠が平生と云ふ性所を尋ねて見ると云ふ所の所へおん使の  
 ありまじき事なれ(衆王出り)霎時に暇場のつばかまじき在所を尋ね  
 時日と移さず俱にまじき事なれ(衆王出り)霎時に暇場のつばかまじき在所を尋ね  
 知縣の怒まるを憂へ揚て甘く吾と詐編て遁まんと云ふとも遁さんや  
 汝拙さ智略を以て欺んと欲まると此方小黒と眼あや争汝小欺ら  
 まんを者共這奴と縛め辛き目を見よとのより早く心づくと雑式  
 どのをくくと飛鬼王矢庭におきて板搦より引却えんとするほど小高資  
 渠等を信と白眼尾終るを雑人どもよりや知縣の命ありとも吾小竹の  
 罪あつて搦めんと云ふ武士と生捕法汝等いんばありやと呵つつけ



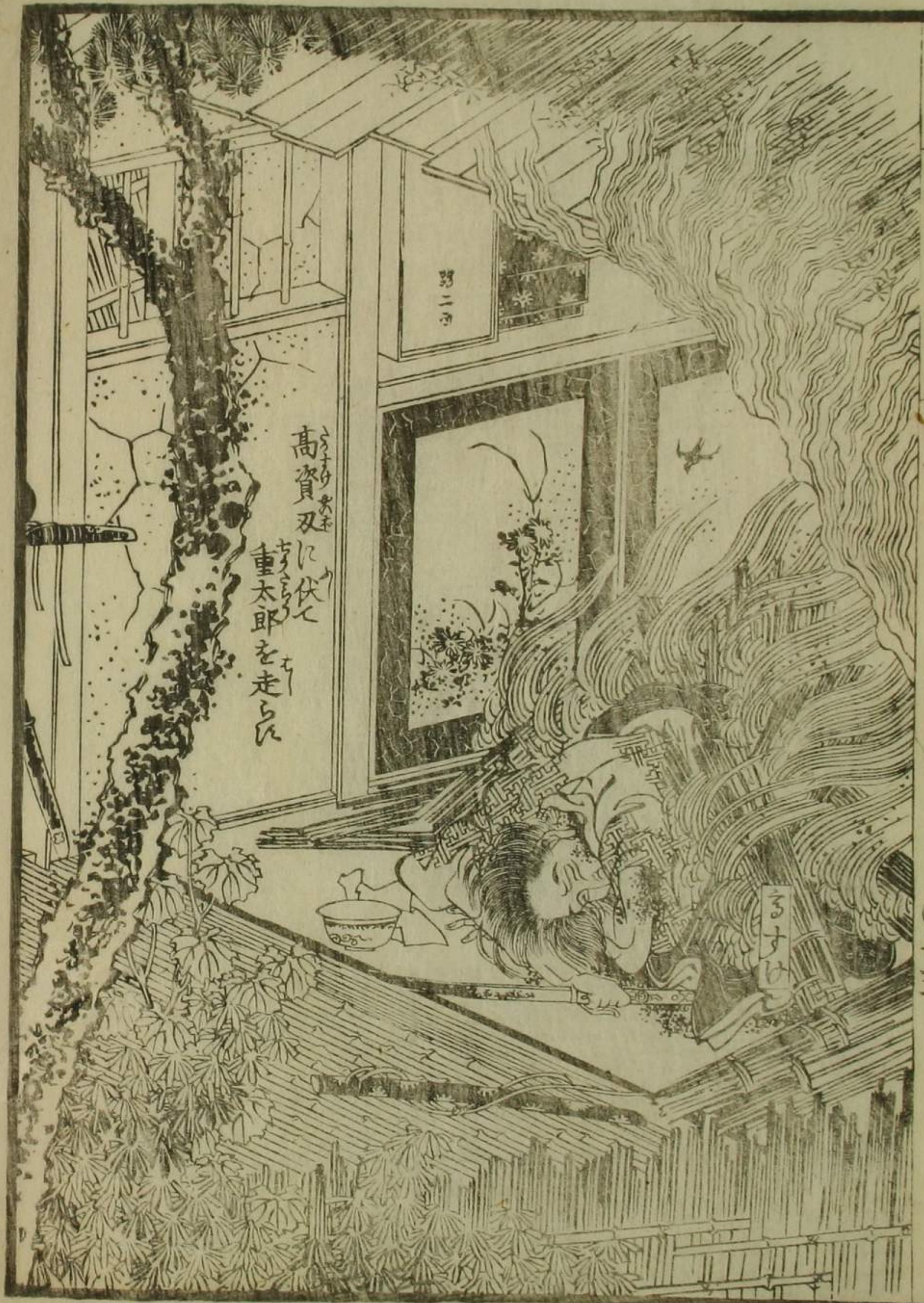
たり恋し傍小遠る突棒刺候或は長柄の棒とひの扱お後と先とあつたり  
 籠子も動せど競ひ蒐まひ近平の物と先と氷る人刃と上段小構えん  
 和みののど拜と撃唐竹割ふるんと白眼つめる面魂小左右なく撃も  
 かりねと次才小入殺の弥倍と道と果ぞうも刃えざるおらう。かの権内が  
 為知小固て扱こそ大りの突をけまて重太郎の刃と固めて暴風の雲吹くる  
 歩ひあて池水りるる小知縣の惣門と深く深く人と急ぎ小理ぬ数多の人  
 戸穿え棒の顛末の分りど父と里見と取扱て撃さんとする小疑ひは遅  
 ばさばさるるんと傍の塘より枝さるる松樹小攀登り是王とと花で狸小  
 小をさす其さの業小差りば脱小先よく見えけまは重太郎の物とのいび  
 女力とねさ放し者あを幸ひ飲らるまは雜人等ひひもけぬお後の故と防さ  
 ひと左右へさると居さ靡け霎時支る者ありとの向小重太郎いつくと

馳多て父君まも在りたる飲びとま小倍りのほ去来在下とあり共小  
 此もさやくらの不と道とあへといひも取ど父が身を把て後小圍ひて斥  
 雜り小群まら。雜人たると砍とひ賣門とさちめてや惣門へ近はく  
 たり。和縣荒磯環八郎腹巻小刃と固め門野豹九郎と指して近習者八  
 九人左右小從雜人們と先小すて不義暴戻なる西條父子並び小  
 弟る里見とす。長上と忍まひ和縣を削。史のころは雜人等も  
 く傷乱妨るひその罪死と免るまを速小株小伏せと異口同音小罵すて  
 あのか一刀を晃り。道とと切て蒐泳とまを重太郎の奮然と力足哉踏  
 あらし。まづ佩副と把て父小あえ大音あげて罵るや。残毒元頼の匹夫め  
 公と益小着てその罪あるの鼻を負し清潔とまを脂んとけりとも皇天  
 りまら地小墮るり争汝等が非望の刃つまら身小まらと也是返の過哉





重太郎



高資又  
に伏し  
重太郎を走らす

改めて謝せんとす。命をうり扶けぬきせん。猶曉するを妨るるが汝等主君が  
 首級逸るる。不敵のくはて通らんと飽きておれけり。荒磯始めての弱冠にぞ  
 その口を生きる。後刻裂ゆいてしまんざりのとあは左右とあつたり。透由も  
 せん。砍て菟は重太郎の一人獅子奮迅の威勢を震い阿修羅王の荒  
 うる如く右を撃て左を難裾とす。一踊り上り。頭を撃てハ掻落す。飛  
 鳥の如く刃を翻し。前へ進み。近習等と二人の砍倒し。約九郎とこと  
 軍舎へ上下と戦ふ。當下荒磯を流方ある。西條高資が対ひを  
 殺滅しと撃つ。約九郎高資の年こそ老。腕小者をあつたのふらうちる  
 太刀を揮ともせ。右の小にら。左の小外。秘術を尽く。一生懸命。荒磯が前へ  
 進む。近習の弱冠が肩先を臂力小あつて。砍付く。元來重太郎が佩副  
 めて。短け。心の任せ。二三寸の薄夷あり。その仕損じ。うと亦振揚は。

その間。荒磯が曳とひら肚と目かけ。ち込む。た刀を心のうらうらと反て。避んと  
 ずが。運や。鳩けん。避損じて。右の太股を砍き。と。嗟やと。膝むと。あつ。う。け。二。ち。二  
 打丁。と。撃。手。小。け。と。高。資。も。寒。る。が。割。の。者。切。を。ひ。て。寄。つ。け。だ。こ。の  
 時。重。太。郎。の。湯。く。小。約。九。郎。と。砍。伏。せ。て。父。や。奈。何。小。と。振。む。け。げ。こ。の。景。勢。小  
 駭。さ。怒。り。飛。來。も。て。荒。磯。が。右。の。腕。と。丁。と。砍。は。不。意。に。撃。手。も。て。荒。磯。の。防。ぐ  
 便。淋。も。あ。つ。た。こと。各。不。の。痛。手。弱。は。不。と。重。太。郎。の。つ。け。入。り。て。その。後。そ。の。處。小。砍  
 倒し。四。を。と。え。ま。い。の。威。勢。小。怖。ま。り。けん。雜。人。等。も。把。搦。ま。いと。危。ふ。ま。り。あ。れ。と。敢。て  
 妨。ま。る。の。あり。里。見。の。遙。彼。方。あ。て。雜。人。等。小。把。搦。ま。いと。危。ふ。ま。り。あ。れ。と。敢。て  
 疾。肩。に。父。と。何。ゆ。ま。せ。う。か。て。あ。つ。さ。り。わ。が。袴。の。裾。と。引。断。離。て。父。が。太  
 股。の。痠。口。と。さ。り。く。と。減。里。の。中。を。肩。小。引。け。て。表。の。方。へ。ち。出。ま。と。本。の  
 小。忍。ま。て。誰。も。支。え。ん。侍。小。支。支。喘。と。く。さ。あ。り。飯。も。つ。高。資。と

肩より下し父うよ心地い奈何小乳と定う小持の人在下か是てあうううの般令  
 一々の人教を振ひて寄来るとも肩あうびいと深疾ありあうう。僥倖ありて  
 及不除う。うう菜と進らせんと誘てお小控さる。金瘡あんど小功法あ菜を  
 さり出。推るあさるるか湯のちや冷て火乳ゆほこの便ほと水あて後王父が口へ  
 沃さるるまの菜の奇特小高資の眼と祝ひうまを記にまを信と祝ひう  
 ず。叔も汝い奈何うとあ処あり在つぞ昨夜糸を清共小此処を道まま  
 あますや筒小の倉卒のうちあて向へさ暇もなうる小思ひもあうぬ深疾成  
 負てまより後の夢のぞく幻小似て定と骨をえぞその杖と疾走んとゆ小重太  
 郎の畏り命小任し怖と伴ひおとまおゆとゆ小の上心許あう。荷助許ゆ  
 まで渠と持し怖と再とゆ小。まより里見へんと地せま云小ゆゆと始終落る  
 詞様小流まが高資双眼小溢るまうりの涙と浮り痛む足と痛まて重たを和

ぞと掛くた危小上座小お存と何と做しあふと何る台見のおお顔形  
 あり諸事あうせん。と縁て心小巧とあう。折とゆうと昨日今日小降あう。禍  
 の迫るりのう。遷あう。若来らううとその日本の乳管あう。小後ひあう。ま  
 あう。察しおけまう。まとあう。糸柱が小倅をせ難あう。落しあう。あ  
 せん。と巧めるりのう。在下と實の父と名せむと今日の一付と危がと跡小送  
 する牙と捨て危難とまぞ枚りまう。勿体あう。まを小妹くゆを。そめく。君の  
 昔見小あう。む。父君の天慶のゆじ平将門君と牒ト合せ山陽南海小威  
 と輝し。且西海小名と揚る。伊豫椽純友君あり。将門君の東國あて既小  
 亡びるひ。はも純友君の威勢強く成ひ。即度使遣付使あど多く下向  
 のありとゆ。弟純素君をの外一族後類多く既小天下の三分あて。その  
 一とが有とま。と天魔鬼の不為小ゆ。一人の妹女と純素君の縁りあゆ。約諾

あり、グハ父君不國その殊女不懸想ひのひ。故不強めて窮むは竟不和君  
とそその腹不存のひ、不純素君のそのとて穿て懐里の兄弟不和となり。  
夫より後の対面多、胡絨の隔とほのめらふ放て、内内の者も自然隔と  
不之腹心、眩股の伊賀寿ども、常少のあつともあつ、疎しくなりけきを。  
十寸の埜も、残穴より、いづれととのみ、諭めて威勢拵めのめくあらず。不放て  
純素君の敢なく、満仲不縁らして、二綱の糸と消ぬ唇、彼とて齒の字とさる  
理不決む、父君のひよく、威勢衰へ、伊豫の目代橋の遠保が、為不生  
捕まね、死不死、あふ、そのと、和君が兄ある、重太郎と言ふ、の周く  
擒不つと、あひて、遠保不付と、あひつ、然る不和君の僅不、果敢方、あて、あ  
者、解、その人、身、あひ、と、と、不純素君の、穿て、懐里、兄、と、い、た、た、た、と、て、  
既、不、人、も、知、つ、と、と、い、ま、不、紛、ひ、と、和、君、と、重、太、郎、と、号、ら、と、と、達、兩、個、と、一、個、の

ごとく、呼あひ、ひ、も、僥倖、を、在、下、乱、軍、の、うち、と、救、ひ、あ、せ、西、國、四、忍、の、御、も、是、と  
往、と、あ、あ、く、義、内、東、國、も、ま、あ、此、あ、う、周、と、あ、地、伴、ひ、あ、あ、せ、女、見、系、托  
この年のやど、似つ、つ、り、こ、故、不、同、胞、と、披、落、と、この年月、娘、ひ、あ、げ、て、幼、穉  
と、つ、る、不、不、実、不、つ、る、君、の、性、質、と、受、嗣、あ、ふ、不、疑、ひ、あ、け、と、い、未、特、母、敷、密、不  
務、び、寄、と、東、山、の、模、様、と、探、不、將、門、君、の、公、達、不、平、太、郎、君、と、言、そ  
あ、ま、と、痛、害、と、遂、め、い、ん、と、あ、諸、あ、と、巡、り、あ、あ、と、い、ん、と、凡、の、便、不、あ、一、う、ど。  
その在、不、と、こ、く、定、く、不、せ、ひ、因、て、深、く、も、心、不、収、め、その、便、宜、と、伺、ひ、つ、る、不、慮  
た、う、難、の、お、来、す、倅、の、爰、不、及、び、す、昨、夜、和、君、と、系、托、と、落、と、て、在、下、跡、不  
送、り、知、縣、と、欺、と、追、及、て、来、ら、ん、と、い、と、い、の、ま、と、こ、の、方、便、あ、て、万、一、不、由  
倅、と、是、不、適、ま、ん、て、い、あ、う、と、粗、推、察、あ、せ、う、と、和、君、が、素、性、吉、支、の、状  
曲、不、系、托、不、い、合、め、且、藤、原、家、の、山、系、圖、二、卷、と、も、渠、不、持、せ、鬼、石、う、方、へ、落

著て二兩日も経らんぬの。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 心ゆるさずが是さ入画儀とるの。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 果しあはし。今言をめぐ。将門君の逆體もあつとさけがぬ。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 互に力とるの。あつとさけがぬ。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 便とつど。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 謝する。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 六十のゆり。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 在る。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 際小いと。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 傍小はさつて。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと

尚更小心と励ま。今の教誡御も小も差ふます。尤もあても落人の秋の風  
 小も怖るゝや。廣と天地も溢る。才の月日照さぬ。干隔湯漢あつとる。りて  
 此身と養育。かをり成長あすの。あつとさけがぬ。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 箕衣と嗣せん。その信心の辱る。生の親小も猶倍て。恩深く。徳言う。その恩  
 徳と一点も報いぬ。若も真去へ。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 肩あて。道は。さけの道と。出陣あつとさけがぬ。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 かをりの。瘳平。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 あり。渠る。小雜人。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 らへ。渠る。小雜人。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと  
 らへ。渠る。小雜人。和君のこゝと奉り且そのひふと細少不流の流るせと

り。地にて瘴負を二個おとす。さきもあつた。何かせし。と。葉も  
 せ。心強くなつた。軍勢が。高資の瘴負を投げ去る。か。若  
 の向ふ。縣の一族押寄。こもまき。よる。大。願。つ。速。不  
 去。あ。じ。個。も。疾。来。よ。と。ふ。の。う。ま。再。意。う。頭。と。突。出  
 ち。彼。方。此。方。と。視。中。折。う。嗟。や。と。叫。ぶ。声。不。後。さ。此。方。へ。来。ま。高。資。の  
 腹。十。文字。小。搔。さ。ま。て。取。小。吼。と。搔。ん。と。重。太。郎。の。飛。巻。ま。つ。その  
 刀。と。押。へ。ま。さ。く。物。不。狂。ひ。の。近。平。権。内。兩。個。の。うち。一。個。来。ま。月。力  
 と。合。と。さ。さ。さ。り。療。養。さ。り。一。回。の。本。後。あ。さ。め。ん。と。あ。り。い。い。と。そ。ん。の  
 碎。け。ま。ま。殺。さ。れ。ど。あ。い。い。と。苦。ん。と。さ。と。さ。と。い。ひ。も。果。ね。不。高  
 資。の。若。し。と。息。と。吻。も。あ。ん。ど。心。の。為。か。ゆ。り。傷。と。も。辱。と。も。い。ふ。さ。ん  
 あ。い。と。さ。と。え。来。惜。う。ぬ。老。の。父。の。殊。不。瘴。を。負。つ。も。い。め。ま。さ。の

世。小。存。ず。へ。ん。と。他。の。厄。人。あ。り。い。い。と。地。と。死。る。と。在。る。が。和。子  
 も。速。り。あ。ま。り。免。角。を。向。小。知。縣。の。一。族。隊。位。と。り。取。圍。ま。が。こ。と。人  
 孔明。が。智。項。王。が。勇。あり。と。て。の。術。あ。る。ん。と。ま。い。在。下。が。息。あ。つ。た。和。子  
 死。地。小。入。は。る。あり。と。心。着。ま。り。近。る。刀。と。把。て。死。と。急。ぐ。老。の。心。と。汲。と。う。て  
 世。と。も。さ。く。退。り。人。と。い。ひ。も。畢。ら。び。眼。と。塞。ぎ。て。忽。地。自。心。の。終。小。け。ま。が。  
 重。太。郎。の。齒。と。切。り。諸。事。と。極。ま。て。天。と。作。さ。地。小。俯。妻。時。歎。さ。り。紅。流  
 襟。小。溢。ま。り。が。依。と。心。と。把。る。あり。死。る。人。の。再。び。飯。ら。び。女。こ。と。歎。さ。小  
 時。と。後。取。圍。ま。さ。る。が。老人。が。志。も。水。の。泡。玄。来。迷。不。さ。ち。出。る。ん。地。の  
 あ。ま。と。も。年。来。目。未。恩。あ。る。人。の。尸。と。さ。の。ま。と。ん。の。性。と。さ。ま。と。と。て  
 後。不。の。葬。る。と。さ。暇。の。あ。り。と。い。せ。ん。と。ま。と。又。と。そ。殺。す。の。ま。と。此。方。ホ。エ。し。さ  
 鞘。小。控。ま。つ。け。る。遊。戯。小。同。と。向。め。も。さ。り。と。息。改。て。火。と。摺。む。枯。柴。と

あつめて<sup>あつ</sup>て<sup>め</sup>吹<sup>か</sup>つて<sup>く</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>火<sup>ひ</sup>見<sup>み</sup>て<sup>て</sup>燃<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。重<sup>ちゆう</sup>太<sup>たう</sup>郎<sup>らう</sup>の<sup>の</sup>堂<sup>だう</sup>合<sup>がう</sup>せ<sup>せ</sup>南<sup>なん</sup>無<sup>む</sup>幽<sup>ゆう</sup>冥<sup>めい</sup>頓<sup>とん</sup>生<sup>せい</sup>  
 吾<sup>わ</sup>志<sup>し</sup>と<sup>と</sup>得<sup>と</sup>る<sup>る</sup>工<sup>こう</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>が</sup>考<sup>こう</sup>批<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>俱<sup>く</sup>不<sup>ふ</sup>犯<sup>はん</sup>は<sup>は</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>。孫<sup>そん</sup>陀<sup>た</sup>佛<sup>ぶつ</sup>と<sup>と</sup>唱<sup>なう</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>脊<sup>せき</sup>戸<sup>こ</sup>  
 より<sup>より</sup>出<sup>で</sup>て<sup>て</sup>上<sup>じやう</sup>野<sup>の</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>出<sup>で</sup>け<sup>け</sup>り<sup>り</sup>

善<sup>ぜん</sup>知<sup>ち</sup>安<sup>あん</sup>方<sup>ほう</sup>忠<sup>ちゆう</sup>義<sup>ぎ</sup>傳<sup>でん</sup>第<sup>だい</sup>二<sup>に</sup>輯<sup>じつ</sup>卷<sup>くわん</sup>之<sup>し</sup>三<sup>さん</sup>終<sup>しゆう</sup>

